

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にならなぐ。
大阪教育大学

01 「教師にならなぐ」修了式

02 リレーエッセイ

03 交流事業の紹介

06 加盟校出身学生・卒業生の紹介

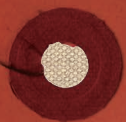
07 加盟校の取り組み紹介

08 大学トピックス／編集後記

教師をめざす高校生育成プログラム 「教師にならなぐ」修了式

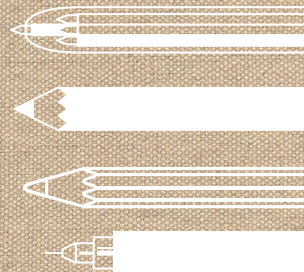
教師をめざす高校生を対象とした特別プログラム「教師にならなぐ」修了式を、11月11日に行いました。和田良彦副学長が挨拶を述べたあと、全3回のプログラムを振り返るビデオが上映され、思い出を分かち合いました。最後は受講生とプログラムをサポートした学生、教員らが揃って笑顔で記念撮影しました。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ

私見ですが…
「教員の仕事」って

大阪府立八尾高等学校 藤井 光正

小・中・高・支援学校…どの学校種でも同じだと思いますが、「転勤」しただけなのに「転職」のように思ってしまうことがあります。生徒の様子、同僚との人間関係、求められる能力や仕事の内容など学校によって全然違います。私もそんなことを経験した一人です。

それはそれはストレスフルな毎日でした。日々繰り広げられる新たな経験のオンパレードはストレスとなって降り積もり、前任校の経験などほとんど役に立たないことを思い知らされました。まさに「転職」です。中でも一番辛かったのは前任校で一生懸命力を注いできたクラブ(柔道部)がなかったことです。今から思えば「何を甘いこと言っていたのだろう」と赤面しますが、当時は大真面目に悩んでいました。正確に言えば4月当初柔道部がありました。名簿には15人もの名前があったのですが、何日経っても柔道場に姿を現す生徒はいません。さすがに業を煮やして全員を呼び出し「稽古しないなら辞めてしまえ!」と一喝したら、見事に全員辞めてしまいました。これまでの経験だと2人や3人は神妙な顔をして「先生、もう一回頑張らせてください」とか何とか申し出てくるはずだったのですが、不覚にも「転職?」したことを忘れていました。ショックと後悔が一遍に押し寄せてきて立ち眩みが起きたのを覚えています。

次の日から自分のメンタルを何とか保つために部員を集める日々が始まりました。近くの町道場にリクルートに行った日、私はある中学校の女子柔道部員に会いました。帯に「泰子」と刺繍がありました。稽古をしてみて確かに運動能力が高いと思いましたが競技成績はありません。真剣に柔道をやっている空気も感じません。当時は大阪で開催される国体の直前で、女子柔道も補強のため他県から超高校級の選手が集められていましたので、大阪のレベルは全国的に見ても非常に高い状況でした。しかし…人間追い詰められたら何を言いつかわからないものです。気がつけば私は、その日娘の稽古を見に来ていたお母さんに「近畿大会に連れて行きますから私を信じて預けてくださ

い」と言っていました。

その日以来この言葉は私の頭の中から離れませんでした。大風呂敷を広げてしまってちょっと後悔しましたが、もう後へは退けません。泰子が入学した春から、考え得ることは何でもしました。1日千本の打ち込み、強豪校との練習試合ツアー…「ヤス! 行け!」多分毎日100回以上叫んでいたと思います。それから2年半後、ヤスは最後の公式戦の畳の上にはいました。試合終了間際、ずっと練習してきた背負投げが決まった時には天にも昇る気持ちでした。約束の近畿大会出場が決まった瞬間です。今でもこのシーンはスローモーションで思い出すことができます。

ヤスは高校卒業後も短大で柔道を続けました。卒業後は保育士として働きましたが、元来姉御肌の彼女は責任感が人一倍強く、つい同僚の仕事を抱え込んでしまう傾向があったようです。心も体もしんどいことが多かったのだと思います。そんな時はいつも私が相談相手になっていました。

その日は突然やってきました。彼女が30歳になった翌年の2月、寒い日でした。彼女のお母さんから携帯に着信があり、その消え入りそうな声が信じられない現実を私の耳の奥に突き刺しました。「先生、泰子が死んだ」「いつまでも起きへんから部屋に行ったらベッドで冷たくなっていた」。所謂突然死でした。駆けつけた小さなセレモニーホールの祭壇の前に横たわるヤスの手を握って私は泣きました。そして、泣いても泣いても涙は尽きないんだということをはじめて知りました。

ここまで読んでくれた皆さんは教職に憧れを抱く高校生かもしれませんし、今まさに教員への第一歩を踏み出そうとしている学生さんかもしれません。あくまでもこれは私見ですのでそのつもりで聞いてください。教員の仕事は「誰かの人生と一緒に生きること」です。だからその覚悟を今から決めておいてください。それほど素敵な仕事なのですから。



藤井 光正 ふじい みつまさ
大阪府立八尾高等学校校長



教師をめざす府立高校生が大教大をまるごと体験

府立高校教職コンソーシアム加盟校を対象とした「大阪教育大学キャンパスガイド 大教大をまるごと体験しよう!」を11月11日、柏原キャンパスで開催し、生徒と教員合わせて約200人が参加しました。在学生による大学紹介、施設見学、大学教員による特別講義などが行われ、高校生たちが本学の魅力を体感しました。

イベントは、本学学生と加盟校である夕陽丘高等学校および大阪教育センター附属高等学校生徒との合同金管アンサンブルによる『アイ ゴット リズム』(ジョージ・ガーシュイン作曲)の演奏で華やかに開幕しました。吉村駿汰さん(数学教育専攻3回生)と南汐里さん(数理解科学専攻2回生)が、タレントのサンシャイン池崎さんとブルボンちえみさんに扮して、大学の特徴やカリキュラム、学生生活をわかりやすく紹介。続いてグループに分かれ、学生の案内で講義室や図書館、体育館などを見学し、食堂で一緒に昼食をとりました。

午後からは、文系と理系に分かれて大学の講義

を体験しました。箱崎雄子准教授(英語教育講座)が文系「発音の基礎・基本—これだけで英語らしく聞こえる—」、町頭義朗教授(理数情報講座)が理系「論理と数理パズル」の講義を行いました。箱崎准教授は、英語と日本語のリズムの違いを説明した後、ジャズのリズムにあわせて英語を発音する「ジャズ・チャンツ」を一緒に歌って、英語らしい発音の基本を教えました。町頭教授の授業では、2色のカードを使い、他者のカードは見えるが自分のカードは見えない状況で自分の色を当てる「数理パズル」に挑戦し、論理的な思考を学びました。

そのほか、作文コンクール表彰式、「めざす教師像」をテーマにしたパネルディスカッション、高校生の質問に大学生が答える「大教大まるごとお答えします」を行いました。

参加した生徒は、「すごく充実していて、全てが面白かった。先生ってやっぱりいいなと思った」「大学生が自分の体験をたくさん話してくれて、とてもためになった」などと感想を寄せました。



在学生が大学の特徴を紹介



グループでキャンパス見学



町頭教授による理系特別講義



事前に集めた質問に答えるコーナー



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

作文コンクール「未来に向かって－教師・夢・感動－」表彰式

教職をめざす高校生を対象とする作文コンクール「Leading to the Future 未来に向かって－教師・夢・感動－」の表彰式を、11月11日の大阪教育大学キャンパスガイドで開催しました。

同コンクールは、作文を書くことを通して現在と未来に思いを巡らせ、教職への夢や覚悟をより確かなものとするのが目的です。

140件の応募の中から、最優秀賞1作品、優秀賞2作品、佳作7作品が選出。受賞者には栗林澄夫学長から賞状とトロフィー、副賞の図書カードや大学公式キャラクターグッズが手渡されました。

最優秀賞の松永日菜子さん(高槻北高校)が作文を朗読しました。介護福祉士を志望していた松永さんは、特別支援学校の送迎バスにふと目を留めたことから興味を持ち、支援学校での実習に参加。教員の働きぶりに心を動かされ、特別支援学校の先生になりたいと思うようになったことを綴りました。

審査に携わった和田良彦副学長は、「行動により心の奥底から確認した夢に敬意を表します。一人ひとりを大切にする優しい先生になれることを期待しています」とエールを送りました。

賞	高校名	氏名	学年	タイトル
最優秀賞	高槻北	松永 日菜子	2	私の夢
優秀賞	北野	竹下 夏鈴	2	現在の自分、未来の自分
優秀賞	夕陽丘	桑田 はるか	2	彼と私
佳作	和泉	竝木 里佳子	1	目指す教師像は完璧か否か
佳作	北野	森 俊輔	1	「教育」から広がる「平和」
佳作	四條畷	西田 匡希	2	教師に必要なもの
佳作	泉北	板木 こころ	2	いつか夢を叶えて
佳作	豊中	奥浜 遥	1	夢へと羽ばたく
佳作	豊中	竹腰 春花	1	曲名
佳作	夕陽丘	西口 優香	1	自分だからできること





未来の教員とともに育てる 府立高校校長らと意見交換会

大阪府立高校40校が加盟する「府立高校教職コンソーシアム」と大阪教育大学との意見交換会を、本学天王寺キャンパスで1月5日(金)に開催しました。

同コンソーシアムは、すぐれた資質を備えた時代を担う魅力ある「教員」を育てるために、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を提供することを目的として結成されました。4年目となる今回の意見交換会には、同コンソーシアムから校長ら32人、本学から28人の計60人が参加しました。

栗林澄夫学長と、大阪府教育庁の橋本光能教育監が挨拶を述べたあと、本学教職教育研究センターの福永光伸教授が、高校生に本学の魅力を体

感してもらう「キャンパスガイド」、高校生育成プログラム「教師にまっすぐ」、現職教員を対象に教師力を向上させる「教師塾」などの連携交流事業について報告しました。続いて、今後の教員需要への対応や多面的な評価を含む入試改革などについて意見交換しました。

出席した校長からは、「本当にいい先生になれる人材を選別できる制度を設計してほしい」「多面的な評価も大事だが、学力の確保も重要」「情報が錯綜しており、早く正確な情報が欲しい」といった声があがりました。

栗林学長は「現場で子どもたちに寄り添うことのできる教員を育成し、地元・大阪に貢献していきたい」と締めくくりました。



加盟校出身学生・卒業生の紹介



なかた あやの
中田 綾乃 さん

教育協働学科教育心理学専攻1回生
茨木高等学校2015年度卒



—高校時代、一番印象に残っていることは？

3年生の時の体育祭と、高校創立120周年記念式典での第九合唱です。体育祭では、演舞などをする応援団の副団長になり練習に励みました。合唱ではマネージャーとして、生徒の練習時間の調整などをしました。生徒は何百人も参加するので、舞台に並んでもらうだけでも一苦労でした。

—大教大に入学してみてどうですか？

少人数の授業が多く、先生との距離が近い。教授に授業テーマを提案して、1コマやらせてもらったこともあります。また、周りの人たちは、教員など将来の目的が明確な人が多い。そういう人たちと一緒に、「人の可能性を伸ばす」とか「人の気持ちに寄り添う社会をつくる」とか、高校生の頃に思い描いていたことを具体的に学んでいる実感があります。

—どんな授業を提案したのですか？

妊娠や出産をテーマにディスカッションしました。私は、子どもを産むということに不安感があります。せっかく教育大で、子どもに関心のある人がたくさ

んいるのだから、考えを聞きたいと思って、教育心理学講座の新崎教授に相談しました。先生は「好きにしていよ」と言ってくださって、たくさん助けていただきました。

—大教のいいところは？

先生との距離が近いところは本当にオススメです。あとは、将来の目標がまだない人も、大教に来ると吸収できることは多いと思います。大教は学ぶ内容が「教育」「子ども」などある程度絞られている。だからこそ、いろんな選択肢が見えやすい。

—受験勉強を乗り越えるには？

私は国語が得意で、得意な科目は楽しい。楽しいと思って勉強する時間が息抜きになる。だから好きではない教科も、何か一つでも楽しみを見つけてほしい。楽しい気持ちで勉強することができれば、結果はどうあれ、やって良かったと思える瞬間が来ます。

あおき ゆうだい
青木 佑大 さん

学校教育教員養成課程保健体育専攻3回生
泉北高等学校2014年度卒



—高校時代で印象に残っていることは？

バスケットボール部に所属していました。3年生の時、近畿大会進出を果たしたのですが、大阪から出場した公立校は自分たちだけ。試験の成績が悪いと練習に参加できないなど部活以外も厳しかったし、バスケより礼節などの指導のほうが多

かった。でも決まり事を全員が守って、やることをやれば私立校にも勝てるんだと嬉しかったですね。

—大教を選んだ理由は？

小学5年生頃から少し荒れていた時期がありました。その時の担任の先生には本当にお世話になって、自分もそんな教員になりたいと思いました。教員になるための勉強がしっかりできて、バスケが強い国公立大学に行きたいと考えて大教大を選びました。

—バスケ部の次期キャンプテンだそうですね。

監督がおらず、自分たちで考えながらやっているの

が現状です。それでも今年関西学生バスケットボールリーグで、2部から1部へ昇格しました。私立大学はバスケ推薦の学生がほとんどで、外国人選手もいる。そんな中でも1部唯一の国公立大学として、自分たちで考え勝つことのできるチームをめざします。入部は誰でもいつでもウェルカムですが、「チームでバスケをやる」というのをめざしているの、その気持ちは持っていて欲しいです。

—保健体育専攻の授業はどんなものがありますか？

講義と実技がありますが、例えば水泳の実技では、泳ぐのはもちろん、溺れた時の対応や子供への教え方などを学びます。専攻の中でも泳げない人がいるので、実際に自分たちでやりながら学びます。

—後輩にアドバイスを。

部活ばかりやっていたので、クラス行事への関わりが薄く、あまり馴染んでいなかったのを後悔しています。試合で文化祭に参加できないこともあったし、体育祭でも大人しくしていました。クラスの行事を楽しむだけ楽しんで、部活やって、すきま時間で遊ぶのがいいんじゃないかと思います。



加盟校の取り組み紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立三国丘高等学校

沿革

本校は、明治28年(1895年)に大阪府立の第二尋常中学校として設置され、創立120年を超え、各界の第一線で活躍する著名人を大勢輩出している伝統ある進学校です。「次世代の国際社会をリードする人材の育成」を基本方針として、■知・徳・体の調和のとれたグローバルリーダー ■夢や志を実現できる確かな学力 ■豊かな心や三国丘スピリット(文武両道、自主自立、切磋琢磨)を旨に、新たな事に積極的にチャレンジしています。



SSH・SGH

SSH: 文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を平成21年度に受け、さらに現在は第2期目指定として「科学体感プロジェクトによる理工系プロフェッショナルとなりうる人材育成」を目標に、今までの経験をさらに充実させて取り組んでいます。具体的には、①科学を感じ、高い志を育成する体感三丘セミナーや体感校外学習 ②協働・創意工夫を実践する探究課題研究 ③科学的な思考を楽しむ実践科学実験をはじめとするアクティブラーニングの授業 を、ルーブリックやポートフォリオでの評価なども導入しながら進めています。

2年生夏には、「米国NASA・FIT海外研修」で世界最先端の研究に触れ、知的好奇心を刺激し、科学の面白さ、素晴らしさを体感します。



SGH: 平成26年度から文部科学省「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」の指定も受け、多彩な教育活動を行っています。「地球規模での持続可能な社会の構築に貢献する創造的課題解決能力を持つグローバルリーダーの育成」を目標に、「国際人としての理念」「先進国の知見」「発展途上国の現状」を学び、アメリカやフィリピン・マニラでのフィールドワークの経験をもとに、最貧困層の人々の生活改善に繋がるBOPビジネスプランの提言に挑戦しています。昨秋11月、文部科学省主催の「SGH全国高校生フォーラム」でベスト4を獲得するなど、各方面で高い評価を得ています。



リーダー育成の三本柱

高い志を育む

1年入学時より、研究の第一人者による講義の「三丘セミナー」や「東京方面キャンパスツアー」「1年京大見学会」などの各大学見学会、卒業生による「キャリアガイダンス」「進路交流会」等、多彩な進路指導を行い、将来の進路に向けて高い意識を醸成しています。

学力向上

全教室に設置されている電子黒板機能付きのプロジェクターを利用し、効率的で能動的な授業を展開。さらに平成27年度からは、更なる学力向上をめざし、隔週土曜日4限授業を実施しています。

グローバルな人材の育成

様々な海外研修や海外修学旅行を実施すると共に、大学入試改革で話題の「4技能型英語授業」については、本校に配置されたSET(Super English Teacher)を中心に英語科が一丸となって先進的に取り組み、今年度から1年生全員対象に実施。着実に力を伸ばし、高校卒業後すぐに海外の大学へ進学する生徒も出てきています。

男子バスケット部が初の1部昇格

男子バスケットボール部が、関西学生バスケットボールリーグ入れ替え戦に勝利し、創部以来初めてとなる1部昇格を果たしました。

2部リーグは全10チームが戦い、1位が自動昇格、2位、3位は1部リーグの9位、8位と入れ替え戦を行います。2部3位に踏みとどまった同部は、1部8位の天理大学と戦い、2勝1敗で昇格を決めました。

リーグ前半は勝ち星に恵まれず、苦しい時期を過ごしたというキャプテンの北代一貴さん(教養学科スポーツ専攻4回生)は、「ギリギリのところでチームがまとまり、皆で一丸となって戦うことができた。来シーズンは1部残留を目標にするのではなく、5位以内に入ってインカレに出場することをめざしてほしい」と後輩に夢を託しました。チームを引っ張ってきた土屋時生さん(教養学科芸術専攻4回生)は、「1部リーグはハイレベルな戦いになるが、勝負できるところもある。自分たちのバスケットをやってほしい」とエールを送りました。



キャリア支援センターがリニューアルオープン

学生の就職活動やキャリア教育を支援する「キャリア支援センター」がリニューアルしました。2月15日に開所式が行われ、栗林澄夫学長、学生保護者会である教育振興会の首藤久美会長、同窓会「天遊会」の島内武会長らがテープカットでオープンを祝いました。

新しいセンターは、多くの学生が利用する講義室と食堂を結ぶ動線上に移転。分散していた相談室などの一部を統合し、広さは2倍近くになりました。事務室のカウンターで対応していた個別相談は5席の専用ブースを新設し、資料閲覧コーナーはテーブルを増やしてゆとりのある配置にしました。奥のフリースペースでは、最大約40人が入れる講義形式のガイダンスや、面接練習などを行うことができます。

栗林学長は、「ご支援いただいた教育振興会と天遊会に深く感謝します。本学を日本の教員養成の基幹大学としていくために、今後ともご支援をお願いしたい」と話しました。



編集後記

学生にインタビューする度、同じ大学に通っていても、大学生活の過ごし方は本当に人それぞれ、十人十色だなと感じます。決められた時間割のない大学は、時間の使い方は自分次第。翻せば、誰も何も決めてくれない。自身で選び決断し行動しなければ、何も生まれないということです。一つのことに没頭する人、あれもこれもといろんなことに挑戦する人。思い思いに、生き生きと学生生活を謳歌する様は、うらやましくもあり、頼もしくもあり。

目新しさや派手さはありませんが、2018年もそんな彼らの日常の姿を多くの方にお届けしたいと考えています。

(Y)